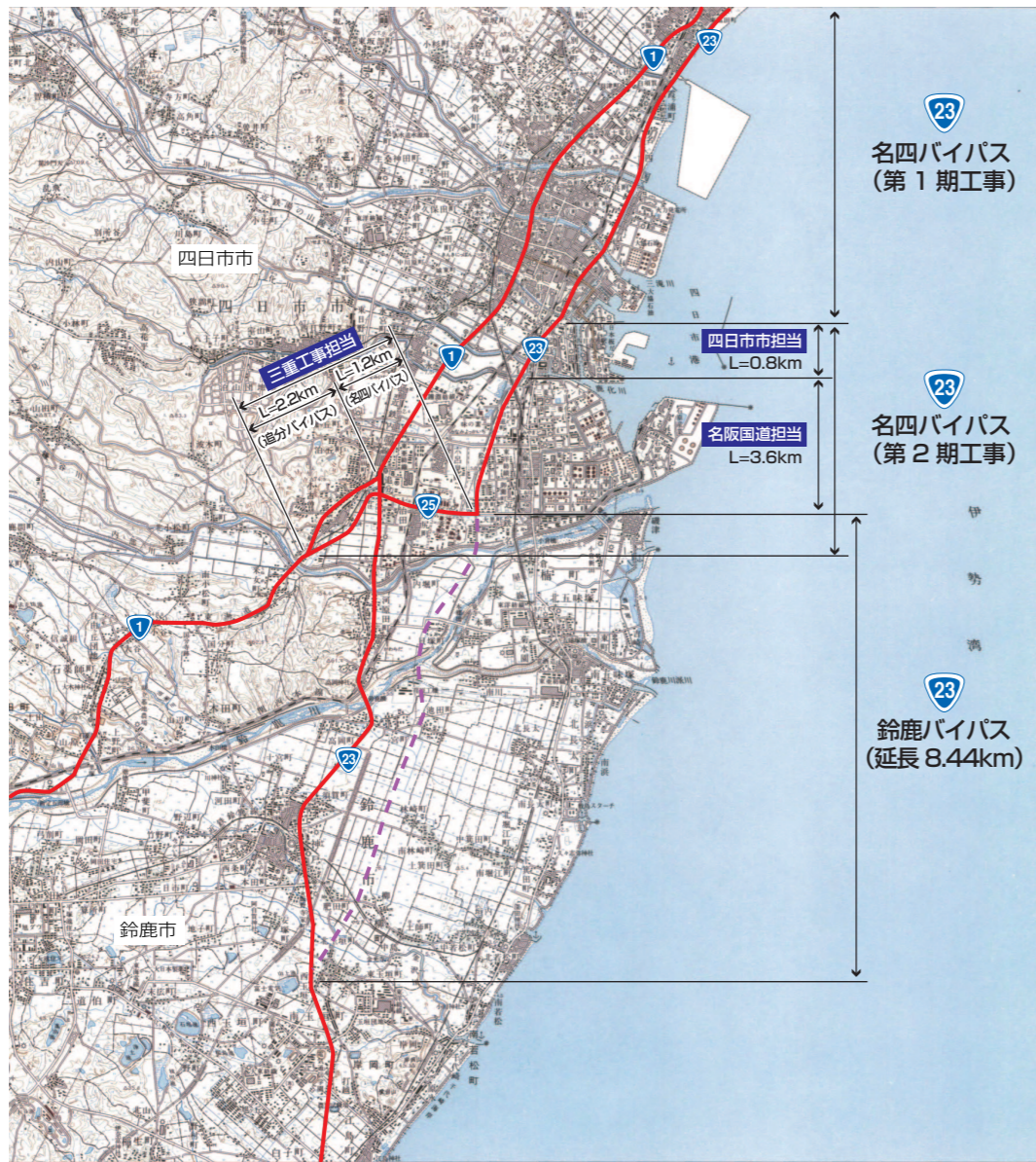


一般国道 23 号は、かつては国道 1 号から伊勢への分岐点となる四日市追分を起点に、鈴鹿市、津市を経て伊勢神宮を結ぶ国道で、昭和 35 年までに有料区間(参宮道路)を含め一次改築を完了しています。その後、昭和 49 年に、国道 1 号のバイパスとして整備が進められた名四バイパス(名古屋～四日市)が国道 23 号に指定されています。

伊勢湾臨海工業地帯を結ぶ唯一の主要幹線道路である国道 23 号の内、三重県北勢地域では、交通量増加に伴うバイパス事業として、名四バイパスの一部と、名四バイパスに繋がる四日市～鈴鹿に至る鈴鹿バイパス事業を、当事務所が担当し整備してきました。

[昭和 40 年代後半の国道 1 号・23 号とバイパス計画図]



昭和 46 年 (1971 年) の国土地理院地形図を基に作成

凡例	
	一般国道 1 号、23 号 (当時)
	一般国道 23 号 (鈴鹿バイパス計画)

鈴鹿バイパス

事業のあらまし

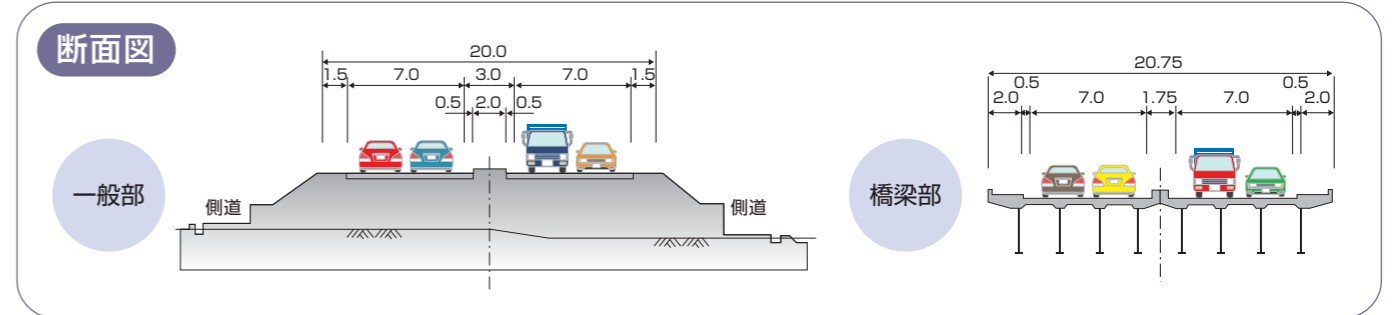
名四バイパスの終点から鈴鹿市へ抜ける道はどの道も幅が狭く、しかも近鉄鈴鹿線との平面交差もあり、いたるところで交通混雑が生じていました。そこで計画されたのが名四バイパスの終点である四日市市中里町から鈴鹿市玉垣町をほぼ直線で結ぶ鈴鹿バイパスです。暫定 2 車線で開通後、起点の四日市市中里地内の 23 号と 25 号の立体交差化、中里高架橋に接続する内部川と終点部の都市計画道路鈴鹿中央線の立体交差化等を推進し全線 4 車線で整備しました。

概要

- 起点 三重県四日市市中里町
- 終点 三重県鈴鹿市西玉垣町
- 路線延長 8.44km
- 幅員 20.0m (4 車線 × 3.5m)
- 構造規格 第 3 種第 1 級 設計速度 80km/h

事業の歴史

- 昭和 44 年度 事業化
- 昭和 45 年度 工事着手
- 昭和 48 年度 暫定 2 車線開通
- 鈴鹿市区間都市計画決定
- 昭和 49 年度 四日市市区間都市計画決定
- 昭和 61 年度 鈴鹿市柳町～西玉垣町間 4 車線開通
- 平成元年度 鈴鹿にバイパス全線 4 車線開通



鈴鹿市北玉垣交差点から四日市市を望む